

■必修領域

【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

全ての受講者が受講する領域

No.	講習の名称	講習の概要	担当講師 (平成30年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
1	【必修】 教育の最新事情	最新の教育事情を大きく(1)子どもの発達に関する脳科学、心理学等の最新知見に基づく内容(特別支援教育に関するものを含む。)、(2)子どもの生活の変化を踏まえた課題、多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割、カウンセリングマインドの必要性(3)学習指導要領の改訂の動向等(4)学校を巡る近年の状況の変化についてに分け、2項目で3時間、計6時間の講座となります。	川島 一夫(教育学部 教授) 今泉 博(教育学部 教授)	6時間	平成30年7月28日(土)	全教諭	全校種	6,000円	100人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
2	【必修】 教育の最新事情	最新の教育事情を大きく(1)子どもの発達に関する脳科学、心理学等の最新知見に基づく内容(特別支援教育に関するものを含む。)、(2)子どもの生活の変化を踏まえた課題、多様化に応じた学級づくりと学級担任の役割、カウンセリングマインドの必要性(3)学習指導要領の改訂の動向等(4)学校を巡る近年の状況の変化についてに分け、2項目で3時間、計6時間の講座となります。本講習はディベートを行います。	守 一雄(教育学部 教授) 武者 一弘(教育学部 教授)	6時間	平成30年8月7日(火)	全教諭	全校種	6,000円	100人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 事前に茂木秀昭『ザ・ディベート』を読んでください。

■選択必修領域

【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域

No.	講習の名称 取り扱う事項	講習の概要	担当講師 (平成30年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
1	【選択必修】 新学習指導要領への対応とその留意点 学習指導要領の改訂の動向等 法令改正及び国の審議会の状況等	新学習指導要領に関する教育内容の変化を中心に、前半では、中央教育審議会答申や教育振興基本計画等による教育政策動向、教師として必要な指導方法(主体的・対話的で深い学び)、カリキュラム・マネジメントに関する内容などを扱います。後半では、進路指導およびキャリア教育に関する内容を扱います。キャリア教育の推進は、中央教育審議会答申でも提言されており、教育振興基本計画等にも位置付けています。	山崎 保寿(教職センター 教授)	6時間	平成30年7月29日(日)	特定しない	特定しない	6,000円	50人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・自校で実施している キャリア教育の概要資料を持参してください (分量自由)。
2	【選択必修】 保護者対応のあり方と学校における危機管理について 様々な問題に対する組織的対応の必要性 学校における危機管理上の課題	様々な問題に対する組織的対応の必要性について、保護者から寄せられる意見・要望等に対してどのように対応したらよいかの理解を深め、保護者対応力の向上につなげます。また、子どもたちが、日々の学習活動に安心して安全に取り組めるよう学校における危機管理上の課題について理解を深めます。	小松 茂美(教職センター 教授)	6時間	平成30年7月29日(日)	特定しない	特定しない	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
3	【選択必修】 教育の情報化 はじめの一步 教育の情報化(情報通信技術を利用した指導及び情報教育(情報モラルを含む。))等	下記の内容について入門的な解説と初心者向けの実習を合せて行います。 1. 教育の情報化 (ア)電子教材の作成と活用(パワーポイントとHTML) (イ)成績処理入門(エクセルとアクセス) 2. 情報教育の現代化 (ア)情報モラルについて (イ)エクセルを使ったプログラミングとシミュレーション	室谷 心(総合経営学部 教授)	6時間	平成30年7月29日(日)	特定しない	特定しない	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
4	【選択必修】 学級経営や授業展開に役立つ教育相談の基礎 教育相談(いじめ及び不登校への対応を含む。)	困難を抱えた児童生徒への支援のために、教育相談の理論と方法についての知識(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む)を身につけ、より実践的な対応のために児童生徒理解、保護者対応、生徒指導上の諸課題についての対応など、より具体的なスキルを身につけることを目的とします。併せて、よりよい教育相談の対応力が、学級経営や授業展開の力量を高めることを理解していきます。	岸田 幸弘(教育学部 教授)	6時間	平成30年7月29日(日)	特定しない	特定しない	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
5	【選択必修】 「気がかりな子」の理解と対応 教育相談(いじめ及び不登校への対応を含む。)	発達特性のある子について、まず基本的知識を学びます。発達障害の中の自閉スペクトラム症、ADHDの症状を知り、気になる園児への理解を深めます。次に具体的な事例を紹介し、どのような点に注目したらよいか、どのような視点で子どもを捉えていけばよいかを講義とグループディスカッションで考えます。そして就学前に園で出来る支援や保護者への対応、病院との連携について事例を用いて学び、実際に役立つ内容とします。	中山 文子(松商短期大学部 専任講師)	6時間	平成30年7月29日(日)	教諭	幼稚園教諭 認定こども園	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	

■選択必修領域 【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が所有する免許状の種類、勤務する学校の種類又は教育職員としての経験に応じ、選択して受講する領域

No.	講習の名称	講習の概要	担当講師 (平成30年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
	取り扱う事項										
6	【選択必修】 外国語科における連携とその指導	小学校・中学校・高等学校の外国語科での連携がどのように考えられているかを知り、また、どのように英語の授業を実施していくかを考えていきます。その連携のあり方を理解し、小学校ではどのように外国語活動・外国語を実施していくのか、中学校・高等学校ではどのように英語で英語を教えるのかについて考えを深めていく講習です。	和田 順一(教育学部 准教授)	6時間	平成30年8月8日(水)	特定しない	特定しない	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・電子辞書がある方はお持ちください。
	英語教育										
7	【選択必修】 保護者対応のあり方と学校における危機管理について	様々な問題に対する組織的対応の必要性について、保護者から寄せられる意見・要望等に対してどのように対応したらよいか理解を深め、保護者対応力の向上につなげます。また、子どもたちが、日々の学習活動に安心して安全に取り組めるよう学校における危機管理上の課題について理解を深めます。	小松 茂美(教職センター 教授)	6時間	平成30年8月8日(水)	特定しない	特定しない	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
	様々な問題に対する組織的対応の必要性 学校における危機管理上の課題										
8	【選択必修】 教育の情報化 はじめの一歩	下記の内容について入門的な解説と初心者向けの実習を合せて行います。 1. 教育の情報化 (ア)電子教材の作成と活用(パワーポイントとHTML) (イ)成績処理入門(エクセルとアクセス) 2. 情報教育の現代化 (ア)情報モラルについて (イ)エクセルを使ったプログラミングとシミュレーション	室谷 心(総合経営学部 教授)	6時間	平成30年8月8日(水)	特定しない	特定しない	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
	教育の情報化(情報通信技術を利用した指導及び情報教育(情報モラルを含む。)等)										
9	【選択必修】 学校・家庭・地域の連携及び協働	学校が抱える課題が複雑化・困難化しているなかで、学校、家庭及び地域の連携・協働の重要性はますます高まっています。こういった背景の下に進められている学校・家庭・地域の連携・協働の仕組みづくりに関する政策や実践への理解を深めていきます。さらに、ワークショップやグループディスカッションなどの活動を通して、地域に目を向けて多様な人々と関わることの教育的意義を学びます。	大蔵 真由美(教育学部 専任講師)	6時間	平成30年8月8日(水)	特定しない	特定しない	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・学外での演習を行います。歩きやすい靴、水分等の用意をお願いいたします。
	学校、家庭並びに地域の連携及び協働										
10	【選択必修】 道徳教育	道徳教育が、大きな変革期を迎えています。今までの道徳の時間の指導が、特別な教科「道徳」としてスタートするのに合わせ、道徳教育の現状をとりえ、課題をはっきりさせた小・中学校の先生方を主に、「道徳教育の最新事情」の講義と、「子ども達が心待ちする道徳の授業づくり」の演習を通して、道徳教育への実践意欲を持って、学級に帰ってもらいたいとの願いを持って、この講座を開設します。	征矢野 達彦(教育学部 准教授) 田野口 弘(基礎教育センター 専門員)	6時間	平成30年8月8日(水)	特定しない	特定しない	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
	道徳教育										

■選択領域

【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が任意に選択して受講する領域

No.	講習の名称	講習の内容	担当講師 (平成29年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
1	【選択】 カウンセリングと心理療法の基本と実際 ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	先生方には子ども達、生徒達、保護者の方々と関わる中で、どのように話しをしたらもつと心を開いてくれるのか、どのように聞いたら本当の気持ちを話してくれるのか、どうしたら問題が解決するのか、悩まれることが度々あると思います。この講座ではカウンセリングや心理療法の基本と実際について学びます。まずはカウンセリングの基本的な考えと技法を学び、次に基本に沿っての演習、そして自分の性格傾向を知るための性格テスト体験を行います。後半(午後)は、心理療法の色々、特に行動療法や認知行動療法について学び、解決の糸口を探るための方法を知ります。カウンセリングは、立ち直る力は本人が持っていると考え、その力を引き出したりサポートするために相談者主体で話を進めるのが基本です。気持ちをきちんと受け止め、切り替えやスタートができるように、先生方自ら体験しながら、聞き方(聴き方)やサポートの技法を学んで頂ければと思います。	中山 文子(松商短期大学部 専任講師)	6時間	平成30年6月2日(土)	教諭 養護教諭	幼、小、中・高(保健、保健体育、総合、看護、福祉)、養護教諭、特別支援学校教諭、及び認定こども園	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
2	【選択】 美味しさの調理学 ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	本講座は、調理学とりわけ“嗜好”に関する最近の研究成果、動向等について理解し、調理学と関わる諸領域の学校での教科指導に活用できることを目標としています。そのため、主な受講対象者は調理学に関する指導の充実を図ろうとする栄養教諭とします。講習は講義のみならず、実験をまじえた構成で行います。	石原 三妃(人間健康学部 准教授)	6時間	平成30年6月9日(土)	栄養教諭	栄養教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 -エプロン、三角巾、手拭用タオル
3	【選択】 ディベートとゲームで学ぶ道徳：進化心理学的アプローチ	道徳の教授内容は倫理学、宗教学、法学などの文系学問や、教育実践に基づく経験知にすぎません。こうした文系の学問や経験に基づく道徳教育は規範的なものとなり、どうするべきかについて子どもたちに教えることはできても、なぜそうするべきなのかについての根拠を示すことはできません。この講座では、科学的な学問である進化生物学に基づいて「なぜ他人に親切にすべきなのか」の理由を理解し、社会心理学の研究手法でもあるゲーム理論を通して、他人に親切にすることの利点を実習します。また、どうしても「嘘っぽく」なりがちな道徳教育をディベートによって徹底的に議論することで「嘘っぽさ」を排除した道徳が教えられるようになることを学びます。ディベートについてあらかじめ知っておいていただくために、事前に『ザ・ディベート』を読んでください。本を読んでこない、ディベートで同じチームになった受講者に影響します。	守 一雄(教育学部 教授)	6時間	平成30年6月16日(土)	教諭	幼、小、中、高、特別支援学校教諭、及び認定こども園	6,000円	40人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・事前に茂木秀昭『ザ・ディベート』を読んでください。
4	【選択】 生徒指導や部活動指導等に生かす臨床心理学—生徒理解のために—	今日の学校教育においては、教師と生徒の関係性が非常に重要であると考えられます。本講座では、生徒指導や部活動指導等の場面において、真に、深く生徒を理解し、対応していくために役立つであろう臨床心理学の考え方について学びます。そして、これはどのようにやるのか、つまり「方法論」の問題ではなく、対応する側のあり方、つまり「姿勢・態度」の問題です。そのため、講師から生徒理解の方法のような、いわゆる「How to」を提供するのではなく、参加する先生方が自分自身のこととして考えていただくことが本講座の目的となります。また、こうした姿勢・態度は、保護者等への対応にも生かすことができると考えられます。なお、参加者が実際の指導場面等で直面した事例について、参加者全員でその事例を共有し検討したいと考えています。部活動の指導や生徒指導等で困った事例を、可能な方はご持参ください。	齊藤 茂(健康科学研究科 准教授)	6時間	平成30年6月17日(日)	教諭 養護教諭	小、中、高、特別支援学校教諭、及び養護教諭、または生徒指導・部活動顧問の先生	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・部活動の指導や生徒指導等で困った事例を、可能な方はご持参ください(事前にEメールで送っていただければ、優先的に扱いたいと思います)。なお、生徒さんのプライバシーには十分ご配慮ください。 講師の連絡先: shigeru.saito@matsu.ac.jp

■選択領域

【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が任意に選択して受講する領域

No.	講習の名称	講習の内容	担当講師 (平成30年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
5	【選択】 救急救命法(CPRとAED)	1 オリエンテーション 授業概要説明、授業計画の進め方説明 2 救命処置の目的と必要性 3 救命処置に必要な人体の構造と仕組み 4 心肺蘇生法(CPR)、救命に必要な応急手当(成人に対する方法)①胸骨圧迫、②気道確保と人工呼吸 ③AEDの使用法、気道異物の除去、止血 5 救命処置のスキルテスト(実技試験) この講習科目は、American Heart Association(米国心臓協会)のBasic Life Support(救命措置)プログラムの救急処置を基準とした内容により構成されている。具体的には、傷病者の観察、救急蘇生法、止血、気道閉塞などの救急処置の基本から実践までを学習する。対象は学校生活に関わる教員全ての方です。	山本 薫(人間健康学部 准教授)	6時間	平成30年6月30日(土)	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・動きやすい服装(スカートは遠慮、口紅等は極力控えてください)
6	【選択】 体質に関わる遺伝子型解析実験 ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	本講座では、ヒトの体質に関わる遺伝子型を解析します。同じエネルギー量を摂食していても、一方は太りやすく、もう一方は太りにくいなどの差異があります。これは、食物アレルギーなどに対する応答と同様に体質の違いに起因するものです。体質の違いは遺伝子型の違いによってもたらされるため、遺伝子型に基づいた各自の体質特性を知った上で食に対する指導を行う方が効果的です。そのため、教員自身が遺伝子型解析を体験し理解しておく必要があります。同じことは、栄養教諭に限らず生物等の理科や保健に関する指導の充実を図ろうとする教員にも必要であると思われるので、それらの科目の教員も受け入れます。講習では、唾液からDNAを抽出し、ポリメラーゼ連鎖反応(PCR法)により体質に関わる遺伝子型を解析する実験(①太りやすさ②アルコール代謝③筋肉特性のいずれかを分析)に加えて、科学的背景や理論について講義方式をまじえた構成で行います。	山田 一哉(健康科学研究科 教授) 高木 勝広(健康科学研究科 教授) 浅野 公介(人間健康学部 助手) 塚田 晃子(人間健康学部 助手)	6時間	平成30年7月1日(日)	教諭 養護教諭 栄養教諭	全教員	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・申込時に解析したい遺伝子型を①～③の中から選んで知らせて下さい。 ・実験開始前30分間は、ガムをかむことと歯磨きはご遠慮ください。 ・事前に送付するマニュアルを読んできてください。
7	【選択】 コミュニケーション・アプローチによる英語教授法	昨今アクティブラーニングの重要性が叫ばれているが、日本における英語教育が旧来の訳読中心の教授法から脱却できずにいることは否めない事実であろう。本講座では、コミュニケーション・アプローチに基づいた英語教授法について考える。実践的な英語教育方法を実際に体験する中で、アクティブラーニングをいかに児童・生徒に実践させるかを考え、効果的な英語教育を行うための基礎知識を身につけることを目標とする。	藤原 隆史(教育学部 専任講師)	6時間	平成30年7月8日(日)	教諭	小、中・高(英語)、及び特別支援学校教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
8	【選択】 授業者のための身体と発声	本講座は、授業における、教師の身体や発声について、対人関係や表現の視点から学び直すことを目指しています。具体的には、自己の身体、他者の関係性における身体、身体と発声の関わり合いなどについて、身体を使った演習をとおして学んでいきます。学習した内容については、受講者自らが、日々の授業実践のなかで体得し、さらに深化させていくことになります。	羽田 行男(教育学部 教授) 盛 加代子(近畿大学文芸学部 教授)	6時間	平成30年8月4日(土)	教諭	小、中、高、及び特別支援学校教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・講義だけでなく演習も行うので、身軽な服装が望ましい。
9	【選択】 子どもの食物アレルギー 基礎から応用まで(学童～思春期編) ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	本講座は、子どもの患者数が増加し、過去には給食における誤食で死亡例も出た食物アレルギーについて、最新かつ正しい知識を身に付け、それを教育現場で実践できるようにする事を目標としています。本講座ではまず、座学で免疫、アレルギーの基本的な知識から最新の情報までを学び、次いで緊急時の対応として、アナフィラキシーショックを起こした際の対処法、特にエビペン®の適用(どのタイミングでエビペン®を打つべきか)から教員が児童、生徒にエビペン®を打つ方法についてロールプレイングを用いて学びます。さらに、担当講師がこれまで研究してきたアレルギー除去食について、実習を通してそのノウハウを学びます。なお、本講座は小学生～高等学校生への対応についてを想定しております。幼稚園児及び認定こども園の園児の対応に関しましては、別途設定しております園児編にご参加ください。	沖嶋 直子(人間健康学部 専任講師)	6時間	平成30年8月6日(月)	教諭 栄養教諭	小、中、高(保健、家庭)、特別支援学校教諭、及び栄養教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・調理実習を行いますので、胸まで隠れるエプロン及び三角巾等頭を覆うものをご準備ください。 【連絡】 ・免疫・アレルギー学の予習のため、「はたらく細胞①～④」(講談社コミックス)を事前に読んでいただくと、当日の座学が分かり易くなります。

■選択領域

【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が任意に選択して受講する領域

No.	講習の名称	講習の内容	担当講師 (平成29年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
10	【選択】 発達上の課題を有する非行少年の理解と支援 ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	講義担当者はこれまで、非行周辺領域(児童自立支援施設・少年鑑別所・少年院・保護観察所・保護司・更生保護施設・自立準備ホーム・自立援助ホーム等)において、発達障害等の発達上の課題を有する非行少年に関する職員への面接法調査を実施した。また少年院入院経験のある発達上の課題を有する本人・当事者への面接によるニーズ調査を実施した。 本講義を通して、環境要因など多様な負の要因が絡み合った結果として非行行動に至った少年の困難・ニーズの理解と支援の課題を考察する。具体的には、児童自立支援施設・少年鑑別所・少年院・保護観察所・保護司・更生保護施設・自立準備ホーム・自立援助ホーム等における発達障害等の発達上の課題を有する少年の実態と支援の状況を扱う。同時に、少年本人・当事者のニーズや想いをもとに、学校教育における教育・発達の支援や、法務少年支援センター・少年院等関係機関との連携のあり方を検討する。	内藤 千尋(教育学部 専任講師)	6時間	平成30年8月9日(木)	教諭 養護教諭	小、中、高、特別支援学校教諭、及び養護教諭	6,000円	35人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
11	【選択】 主体的な学びを育む小学校社会科授業づくり ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	授業では、「どのように学ぶか」に着目しながら学びの質を高めていくことが求められています。そのために、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善の取組が重要です。本講習では、小学校社会科授業にて扱う地域の施設を用いて、子供が自ら課題を見つけ、解決していくための学習プロセスを構築できるよう指導していきます。そして、受講者が「主体的・対話的で深い学び」を授業において実現できるようにすることを目指します。	秋田 真(教育学部 准教授) 高山 雪(教職支援センター 専門員)	6時間	平成30年8月10日(金)	教諭	小学校教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【連絡】 ・本講習は学外へ出て行う講習を含めています。 ・松本城付近で昼食時間を取ります。 ・裁判所内の撮影を希望する方はデジタルカメラが必要です。
12	【選択】 子どもの食物アレルギー 基礎から応用まで(園児編) ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	本講座は、子どもの患者数が増加し、過去には給食における誤食で死亡例も出た食物アレルギーについて、最新かつ正しい知識を身に付け、それを教育現場で実践できるようになる事を目標としています。本講座ではまず、座学で免疫、アレルギーの基本的な知識から最新の情報までを学び、次いで緊急時の対応として、アナフィラキシーショックを起こした際の対処法、特にエビペン®の適用(どのタイミングでエビペン®を打つべきか)から教員が児童、生徒にエビペン®を打つ方法についてロールプレイングを用いて学びます。さらに、担当講師がこれまで研究してきたアレルギー除去食について、実習を通してそのノウハウを学びます。なお、本講座は幼稚園児、保育園児への対応についてを想定しております。小学校以上の児童生徒の対応に関しましては、別途設定しております学童思春期編にご参加ください。	沖嶋 直子(人間健康学部 専任講師)	6時間	平成30年8月11日(土)	教諭	幼稚園教諭、及び認定こども園	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・調理実習を行いますので、胸まで隠れるエプロン及び三角巾等頭を覆うものをご準備ください。 【連絡】 ・免疫・アレルギー学の予習のため、「はたらく細胞①～④」(講談社コミックス)を事前に読んでいただくと、当日の座学が分かり易くなります。
13	【選択】 共生社会とスポーツ～パラスポーツの体験とその教育的意義～	スポーツと共生社会について、教育・福祉・スポーツの側面から考えます。パラスポーツセンターの「I'm POSSIBLE」の教材について学び、パラスポーツの体験を行います。パラスポーツ体験を通じて、何をどのように子どもたちに伝えるのか、インクルーシブ教育の先に何があるのかなどについて考えます。ダイバーシティ、パラダイムチェンジ、マインドセットなどの言葉をキーワードに、障害の理解、インクルーシブ社会についてスポーツがどのように貢献するか学びます。	小林 敏枝(教育学部 教授)	6時間	平成30年8月11日(土)	教諭	小、中、高、及び特別支援教諭	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・運動のできる服装、体育館シューズ

■選択領域 【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が任意に選択して受講する領域

No.	講習の名称	講習の内容	担当講師 (平成29年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
14	【選択】 運動生理学アップデート	運動生理学では、運動中に起こる身体機能変化やトレーニング、運動不足、加齢に伴う適応の仕組みを学びます。研究の進展により新たに分かった事や考え方が変わった部分も多いため、最新の研究結果を含めた情報にアップデートすることを目的とし本講習を実施します。例えば、運動中の代謝変化や疲労、トレーニングによる骨格筋肥大、廃用性筋萎縮やサルコペニア、2型糖尿病発症のメカニズムなど、近年分かってきた研究結果をまとめながら解説します。身体教育や保健・体育、トレーニング指導において、新しい情報を取り入れた指導方法の再考案に活用してもらいたい。	河野 史倫(健康科学研究科 准教授)	6時間	平成30年8月18日(土)	教諭 養護教諭 栄養教諭	小、中・高(理科、保健、保健体育)、特別支援学校教諭、養護教諭、及び栄養教諭	6,000円	40人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
15	【選択】 子どもの問題解決が実質化する45分間の授業構成について ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	アクティブ・ラーニングの実現に向けて「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」が一体化したイメージ図が示された。今後は、実際に、主体的・対話的で深い学びが学習過程の中で相互に関連し合っている具体や実践例を一つ一つ蓄積することが求められていると言える。 本講座では、45分間の授業における各時間帯ごとの子どもの様相、授業者の役割、教材の働き等をとらえる。その具体をもとに、学習過程の質的改善を行う視点や具体的な取り組みを検討する。特に、子どもの思考が揺さぶられる瞬間や、授業を焦点化していく局面など、これまで明確にとらえにくかった部分に焦点を当てる。授業改善に向けた取り組みや授業想定への精度は、それらを不断に見直すことで高まる。	澤柿 教淳(教育学部 准教授)	6時間	平成30年8月25日(土)	教諭	小、中・高等学校教諭(国語、算数、理科、数学、道徳)	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
16	【選択】 わらべうたの教育的意義とワークショップ(幼小接続の視点から)	幼小接続の重要性は認識されているにも関わらず、実際の取り組みは十分ではなく課題が多い。わらべうたは歌を伴う伝承あそびであり子どもの文化であるが、音楽的要素だけでなく全人的な教育的意義を持つ。このわらべうた遊びの活動が幼小接続において有意義であることを理論、演習を通して学ぶ。幼児教育と小学校教育に携わる教員が子どもの発達を「連続性・一貫性」と捉えて情報交換しながらお互いを理解することが望ましい。	安藤 江里(教育学部 専任講師)	6時間	平成30年9月1日(土)	教諭	幼、小、中・高(音楽)、特別支援学校教諭、及び認定こども園	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 リコーダーを持っている方は持参してください(楽譜読めなくても可)。 【連絡】 動きやすい服装で参加してください。
17	【選択】 結婚と結婚式、その変遷と現状 ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	結婚と結婚式を通して、文化論、社会学、ビジネス論を考えていきます。家庭は社会の最小単位であり、その家庭は結婚することから始まります。この結婚は、もしくは結婚後の家庭生活は、時代と共に変化しております。このようなことをある程度把握しておくことにより、特に社会科の授業や、生徒指導に役立つものと思われま。歴史も含めてまずは自分の国を知ること、自分の住む地域を知ること、そして家族と自分を知ることが、国際社会に出て行っても恥ずかしくない人材に成りうることであり、大いに学校教育に役立つものと思われま。また、結婚式をビジネス、仕事という面から捉えることにより、商学、経済学、経営学、そしてキャリア教育などにも参考になると思われま。	小澤 岳志(松商短期大学部 専任講師)	6時間	平成30年9月2日(日)	教諭	幼、小、中・高(社会、地理歴史、公民、総合、職業、宗教)、特別支援学校教諭、及び認定こども園	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	

■選択領域

【受講者募集期間】平成30年4月9日(月)～平成30年5月7日(月)

受講者が任意に選択して受講する領域

No.	講習の名称	講習の内容	担当講師 (平成29年4月1日現在)	時間数	講習の期間	対象職種	主な受講対象者	受講料	受講人数	受講者募集期間	※受講者への 事前連絡等
18	【選択】 子どもがゲーム理解をするボールゲームの授業をつくる ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	現在日本の学校体育で行われているボールゲームは、「めあて学習」や「戦術学習」の学習スタイルで指導されていると思われ、しかし、学習者である子どもの側から観察すると、どちらも教師側の理論で構成され、学習者のゲーム理解が促進されているのかを疑問に感じます。 そこで、学習者が主体的にゲームに参加をする考え方を共有して、現場の先生方に、新たな見方・考え方を提示し、ボールゲームの授業をデザインするうえで参考になる講習会にしたいと考えています。 午前先生方の指導されたボールゲームについて、どんなスタイルで授業デザインしているのかを共有するとともに、理論研修を行います。午後ベースボール型とネット型の授業を取り上げ、学習者がゲーム理解をしていく、発問・教具・場について実技研修していく予定です。	濱田 敦志(教育学部 准教授)	6時間	平成30年9月8日(土)	教諭	小、中・高(保健体育)、及び特別支援教諭	6,000円	30人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・実技があるので、運動できる服装、体育館シューズ、飲み物を持参してください。 ・自分が行ったボールゲームの略案(A4表表)
19	【選択】 近年における社会福祉・社会保障の動向	本講座は、近年の社会福祉・社会保障の動向について学びます。また、その背景にある社会的な課題・問題についても取り上げます。具体的には、政策の動向、制度の仕組み、そして、社会福祉における援助(ソーシャルワーク)について学びます。これらについて、講義を中心に演習も交えながら学ぶ講座とします。	今村 篤史(総合経営学部 専任講師)	6時間	平成30年9月29日(土)	教諭 養護教諭	小、中・高(社会、公民、福祉、総合)、特別支援学校教諭、及び養護教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
20	【選択】 異文化コミュニケーションの実践(異文化理解と英語コミュニケーションからのアプローチ)	本講座は二部構成になっており、前半は「異文化理解」に関する内容で、後半は異文化コミュニケーションのための実践的な「英語コミュニケーション」に関する内容となります。「異文化理解」に関しては、北米における移民の社会的な同化について、各同化理論の理解と歴史的な変遷をまずは把握します。そして、ケース・スタディとして日系カナダ人がいかに異質なカナダの社会へ同化して行ったのかを、カナダの政治・歴史・文化と関連を持たせながら学ぶことにより、異文化理解および多文化共生社会にとって何が重要であるかを考えます。また、「英語コミュニケーション」に関しては、ネイティブ・スピーカーによる英語だけを使用した授業で、異文化コミュニケーションの視点から様々な状況設定がなされており、それらに対応するための実践的な英会話を習得します。	大石 文朗(教育学部 教授) マーメット・シヨーン(教育学部 准教授)	6時間	平成30年10月6日(土)	教諭	中・高等学校教諭(英語)	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	
21	【選択】 子どものお弁当から学ぶ食育・栄養指導	本講習は調理実習を行います。子どもの心と発育や発達のためには、幼児期における食習慣の確立や幼児を取り巻く環境の整備が大切です。「食育基本法」が制定されたことを受け、早い時期(幼児期)から、よりよい食習慣を確立するために食行動の発達に沿った特徴や栄養素の必要性を学びます。実際の弁当づくりから栄養バランスのよいかたちを知ることで教育現場での園児や保護者へアプローチができる食育指導展開に繋がります。調理実習においては年齢に応じた内容量(弁当箱)に用意された食材を選び、調理方法を工夫して彩りのよい、食欲がそそるお弁当とうを完成させます。コンセプトについてグループごと発表をします。	水野 尚子(人間健康学部 助手)	6時間	平成30年11月10日(土)	教諭 栄養教諭	幼、小、認定こども園及び栄養教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・調理実習を行いますので、胸まで隠れるエプロン、三角巾(頭を覆うもの)、ハンドタオルをご準備ください。 ・お弁当づくりから弁当箱の大きさや栄養バランス(栄養量)を学ぶため、300～350mlサイズまたは400～450mlサイズの弁当箱をご準備ください。
22	【選択】 ミクロの世界をのぞくー細胞を見る(正常の細胞から癌細胞まで) ※H29年度に本講習の認定を受けた方は、今年度受講しても認定されません。	われわれの体はたくさんの細胞からできています。現代は細胞の時代といってもよく細胞を人工的に操作することも可能になり、細胞工学という言葉も生まれています。iPS細胞を代表に、1個の細胞を変化させることによっていろいろな組織もできてきます。しかし、われわれが日常目にするのは肉眼の世界です。そこから、顕微鏡をはじめとした光学機器の力によりミクロの世界に一歩足を踏み入れると生命の営みの元である細胞がその姿を現してきます。一口に細胞といっても、体の中には、臓器によって、さまざまな形と機能がありますが、植物やヒトを含めた動物の細胞をプレパラートを使って顕微鏡で観察し、スケッチします。細菌やウイルスなどのさまざまな病原体とそれによって起こる臓器の変化やがん細胞(子宮頸がん、乳がん、肺がんなど)もそれが発生する臓器によって、それぞれ細胞と形が違いますが顕微鏡観察によって明らかになってきます。	江原 孝史(健康科学研究科 教授) 塚田 晃子(人間健康学部 助手)	6時間	平成30年11月18日(日)	教諭 養護教諭	小、中、高、特別支援学校教諭、及び養護教諭	6,000円	20人	平成30年4月9日～平成30年5月7日	【持物】 ・色鉛筆持参

※講習の日程、担当講師は、諸般の事情により変更になる場合がございます。あらかじめご了承ください。